

病虫害発生予報 第8号（11月予報）について

令和6年度病虫害発生予報 第8号（11月予報）を別添のとおり発表します。

（補足）

県農作物病虫害防除所では、植物防疫法に基づき、有害動植物の防除を適時で経済的なものにするため、気象、農作物の生育状況、有害動植物の発生調査の結果等を分析し、有害動植物の発生予察及び防除対策に係る情報（発生予察情報）を提供しています。

「病虫害発生予報」は病虫害の発生予測及び防除情報を定期的に発表するもので、本県の場合は4～11月に月1回発表しています。

（連絡先）

担当課室	鳥獣害対策課	農作物病虫害防除所
担当者	岩倉	岡本晃久
電 話	073-441-2905	0736-64-2300

病害虫発生予報 第 8 号（11 月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

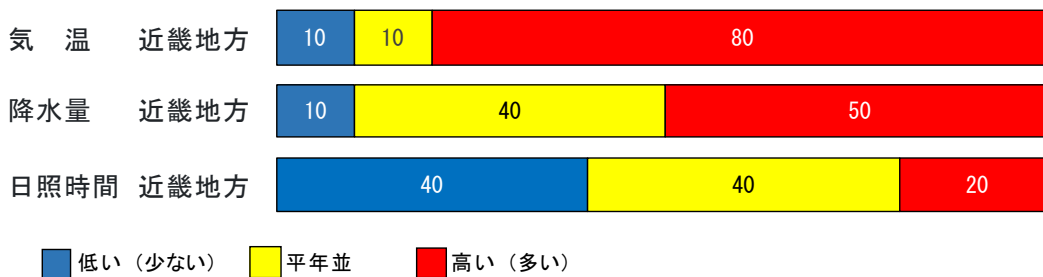
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
エンドウ	褐斑病、褐紋病	並	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ	やや多
	うどんこ病	並		ハスモンヨトウ	多
	つる枯細菌病	並		オオタバコガ	やや多
	ハダニ類	並			
	ウラナミシジミ	多			
ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病	並	カンキツ	果実腐敗病	やや少
	アブラムシ類	並		ミカンハダニ	やや多
	コナガ	やや少		カメムシ類	並
	ヨトウガ	並			

気象予報

近畿地方 1 か月予報（10/26～11/25）

2024年10月24日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
向こう 1 か月 10/26～11/25	天候	近畿日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	降水量	降水量は、多い確率50%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1 週目 10/26～11/01	気温	1 週目は、高い確率80%です。
2 週目 11/02～11/08	気温	2 週目は、高い確率70%です。
3～4 週目 11/09～11/22	気温	3～4 週目は、高い確率50%です。

向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



I. 野菜・花き

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は6%（平年17%）、発病葉率は0.1%（平年0.6%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

② 施設栽培では、降雨が多いと予想される場合は早めにビニル被覆を行う。

③ 薬剤の予防散布に努める。

④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率7%、発病葉率1%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では、低温期でも乾燥すると発生しやすい。

② 下位葉に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、発病葉率0.0%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病の病斑は日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットは予防効果が高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部における10月下旬の発生ほ場率は33%（平年27%）、生息株率は12.7%（平年11.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

5. ウラナミシジミ

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県中部における 10 月下旬の被害発生ほ場率は 77%（平年 68%）、被害株率は 40.8%（平年 23.6%）であった。被害さや率は 18.8%（平年 7.0%）、1 花あたりの産卵数は 0.29 個（平年 0.22 個）であった。
- ② 11 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し処分する。
 - ② 主な産卵部位である花や蕾に薬液が十分かかるよう、7～10 日間隔で防除を行う。
 - ③ 令和 6 年度病害虫発生予察注意報第 8 号（令和 6 年 10 月 30 日発表）を参照する。

＜ハクサイ、キャベツ＞

1. 黒斑細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のハクサイ、キャベツにおける 10 月下旬の発生ほ場率はいずれも 0%（平年：ハクサイ 0%、キャベツ 0%）であった。
 - ② 11 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 降雨前に薬剤を予防散布する。

2. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける 10 月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は 27%（平年 16%）、生息株率は 2.7%（平年 2.5%）、ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は 18%（平年 29%）、生息株率は 1.8%（平年 7.5%）であった。
 - ② 黄色水盤（紀の川市）への 10 月 1～20 日の飛来数は、32 頭（平年 46.1 頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤散布にあたっては薬液が株元の葉裏に十分かかるように行う。

3. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける 10 月中旬の発生ほ場率は 0%（平年：発生ほ場率 7%、10 株あたり生息密度 0.0 頭）であった。
 - ② フェロモントラップによる 10 月 1～20 日の誘殺数は、和歌山市 15 頭（平年 65.6 頭）、紀の川市 0 頭（平年 0.2 頭）であった。
 - ③ 11 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

4. ヨトウガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける 10 月中旬の発生ほ場率は 9%（平年 3%）、生息株率は 0.5%（平年 0.4%）であった。
 - ② フェロモントラップによる 10 月 1～20 日の誘殺数は、紀の川市 2 頭（平年 7.9 頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生初期の若齢幼虫の防除に努める。

＜野菜・花き全般＞

1. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は46%（平成5%）、生息株率は3.6%（平成0.3%）であった。
- ② 県中部のエンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は13%（平成4%）、生息株率1.3%（平成0.5%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市103頭（平成27.3頭）、御坊市91頭（平成69.6頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

2. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は73%（平成17%）、生息株率は17.3%（平成1.8%）であった。
- ② 県中部のエンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は60%（平成14%）、生息株率は8.7%（平成2.5%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市7,432頭（平成1,504頭）、紀の川市1,883頭（平成994頭）、御坊市7,664頭（平成2,508頭）であった。
- ④ 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シロイチモジヨトウに準ずる。
- ② 令和6年度病害虫発生予察注意報第7号（令和6年10月30日発表）を参照する。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は55%（平成7%）、生息株率は5.5%（平成0.5%）であった。
- ② 県中部のエンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は20%（平成9%）、生息株率4.0%（平成1.1%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市117頭（平成36.4頭）、御坊市197頭（平成31.4頭）、印南町70頭（平成43.3頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中～老齢幼虫に対する薬剤の防除効果は低いので、若齢幼虫期に防除するよう努める。

Ⅱ．果 樹

<カンキツ>

1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

（1）予報内容 発生量 やや少

（2）予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病発生ほ場率は0%（平成8%）であった。

② 11月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。

② 収穫前の薬剤散布を励行する。

③ 果実は丁寧に取り扱い、果面に傷をつけない。

2. ミカンハダニ

（1）予報内容 発生量 やや多

（2）予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬の発生ほ場率28%（平成11%）、発生葉率は7.1%（平成1.7%）であった。

② 11月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 収穫前の薬剤散布は使用基準に特に留意する。

② 収穫時期まで袋かけを行う品種では袋かけ前に発生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。

③ 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

3. カメムシ類

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

① 紀の川市粉河の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが106頭（平成189頭）、ツヤアオカメムシが71頭（平成308頭）であった。

② 有田川町奥の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが97頭（平成92頭）、ツヤアオカメムシが58頭（平成466頭）であった。

③ みなべ町東本庄の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが139頭（平成459頭）、ツヤアオカメムシが609頭（平成5,852頭）であった。

（3）防除上考慮すべき諸点

① ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、発生に応じて防除を行う。

② 発生がみられるほ場で薬剤散布する場合は、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780